

珠洲市
伏見野田山下遺跡

2006

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

ふし　み　の　だ　やました
伏見野田山下遺跡

2006

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例　言

- 1 本書は伏見野田山下遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は珠洲市三崎町伏見地内である。
- 3 調査原因は紀の川局部改良工事に係るものであり、同事業を所管する石川県土木部河川課が石川県立埋蔵文化財センターに発掘調査を依頼したものである。
- 4 現地調査および出土品整理は石川県立埋蔵文化財センターが依頼を受けて平成2（1990）年度に、報告書刊行は（財）石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて平成17（2005）年度に実施した。
- 5 調査にかかる費用は、石川県土木部河川課が負担した。
- 6 現地調査は平成2（1990）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間 平成2（1990）年6月7日～同年6月22日 同年10月11～12日

面　積 500m²

担当課 石川県立埋蔵文化財センター調査第1課

担当者 主事 本田秀生

- 7 出土品整理は平成2（1990）年度に調査第1課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成17（2005）年度に実施し、調査部調査第3課が担当した。執筆、編集は本田秀生（企画部企画課専門員）が行った。
- 9 調査には下記機関の協力を得た。
石川県土木部河川課、奥能登土木総合事務所、珠洲市教育委員会、田畑　弘（現新潟県南蒲原郡田上町教育委員会）
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は真北である。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 周辺の遺跡	2
第3章 遺構と遺物	4
第1節 調査の概要	4
第2節 遺構と遺物	4
第4章 まとめ	8

挿図目次

第1図 遺跡位置 (1/200,000)	1	第4図 トレンチの位置 (S = 1/1,200) と 土層断面 (S = 1/60)	6
第2図 周辺の遺跡 (S=1/50,000)	2	第5図 遺物実測図 (S = 1/3 S = 1/6)	7
第3図 調査地点の位置 (S = 1/5,000)	3		

図版目次

図版1 調査区全景 (東から) Aトレンチ全景 (西から)	図版5 Cトレンチ土層断面4 Cトレンチ土層断面5 Dトレンチ全景 (南東から)
図版2 Aトレンチ作業風景 Aトレンチ土層断面1 Aトレンチ土層断面2 Aトレンチ土層断面3 Bトレンチ区全景 (東から)	Dトレンチ土層断面1 Dトレンチ土層断面2 Dトレンチ土層断面3 Dトレンチ土層断面4 Dトレンチ土層断面5 Dトレンチ土層断面6
図版3 Bトレンチ土層断面1 Bトレンチ土層断面2 Bトレンチ土層断面3 Bトレンチ土層断面4 Bトレンチ土層断面5 Bトレンチ土層断面6 Bトレンチ作業風景 Cトレンチ杭検出状況	Dトレンチ土層断面7 Dトレンチ土層断面8 Eトレンチ土層断面 Fトレンチ土層断面 図版7 Eトレンチ表土除去状況 Fトレンチ全景 (西から)
図版4 Cトレンチ全景 (南東から) Cトレンチ矢板検出状況Cトレンチ土層断面1 Cトレンチ土層断面2 Cトレンチ土層断面3	図版8 出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成元年11月29・30日に石川県立埋蔵文化財センターは石川県土木部河川課から依頼を受け、珠洲市三崎地内の紀の川改修に伴う約43,600m³を対象として事前の試掘調査を実施した。その結果、通称野田山の裾部で遺跡が確認された。しかし、全面的な発掘調査を必要とするものではなく、部分的なトレンチ調査で対応可能なものと判断し、約500m³の発掘調査が必要と回答している。翌年、同課珠洲土木事務所から発掘調査の依頼があり、打ち合わせの結果、平成2年6月から発掘調査を実施することとなった。また、部分的に作付け等で調査のできない部分については、作物の収穫後に調査を行うこととした。



第1図 遺跡位置 (1/200,000)

第2節 調査の経過

発掘調査は、6月6日から開始している。トレントの設定をまず行った。翌7日に仮設建物の設置と重機による表土除去を実施した。湧水がかなりあり、8日は排水作業の後、基準杭の設置を行っている。

11日からは作業員を導入し、Dトレントから掘り下げを開始した。12日にはCトレントの掘り下げにかかっている。13日にはBトレント、14日にはAトレントの掘り下げを行った。Cトレントで杭、矢板を検出した以外遺構は確認されなかった。遺物は、各トレントから少量出土したにとどまる。15日までに実測作業を終え、19日に埋め戻しを行った。その後、22日までに機材を撤収し、現地調査を終了した。

作付けで調査のできなかった地点は、10月1日からE、Fトレントを設定して重機による表土除去作業を実施したが、遺構等は確認できず遺跡の範囲からははずれるものと判断し、翌2日に記録資料の作成後埋め戻し、すべての調査を終了した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

伏見野田山下遺跡は、石川県珠洲市三崎町伏見地内に位置する。珠洲市は、南北に長い石川県の北端に位置し、北、東、南の三方が海に面し、南西は能登町、西は輪島市と接している。地形的に見ると標高468mの宝立山を中心とする宝立山地が市域の北西および北に広がり、その南には標高250m以下の奥能登丘陵が分布している。さらにその前面には海成段丘がみられ、特に三崎地区では広い段丘面が広がっている。

この前面を海岸平野や三角州が縁取っているが、これらは砂洲の発達によって形成された渦が埋積されたものである。山地から流れ出す河川は市域の南側で多く見られるが、若山川を除き、その長さは短く、山地や段丘には溜池が多く作られている。

市の面積は247,2平方キロメートル、人口は平成18年1月の推計で17,920人である。過疎化が著しく、第三セクターで運営されていたのと鉄道の廃止や、関西電力、中部電力、北陸電力によって進められていた原子力発電所計画の凍結により、今後さらにこの傾向が進む可能性がある。これに対し、市は7つの基本方針と52項の施策からなる第5次珠洲市総合計画を策定し、4つの重点プロジェクトを基本とする地域振興策を打ち出している。

遺跡の所在する三崎町は、市の南東端に位置する。中央部には海岸段丘が広がり、その両側は砂丘と低地部が広がっている。伏見地内はその先端中央部に位置し、海岸段丘が広がっているが、北の高波や、引砂、内方地内との境を流れる紀の川右岸部は、低地部となっている。

伏見集落は海岸線に位置しているが、遺跡は河口から15kmほどさかのぼり、低地部に張り出した野田山と呼ばれる丘陵裾部に広がっている。



第2図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第2節 周辺の遺跡

第2図は、周辺の遺跡の分布図である。周辺で一番古い遺跡は雲津遺跡で詳細は不明であるが、縄文時代草創期と考えられる石棺が粘土採掘中に発見されている。縄文時代の遺跡は、図中では7遺跡確認されている。丘陵の縁や裾部、砂丘上に立地するものが多い。高波ふるや遺跡、粟津カンジヤバタケ遺跡が良く知られている。高波ふるや遺跡では小貝塚も確認されている。弥生時代では4遺跡が確認されているが、遺物が採集されている他は詳細不明である。今回報告する伏見野田山下遺跡でも遺物が出土している。

古墳時代では、10遺跡が確認されている。そのうち6遺跡が、製塙遺跡で海岸線に位置している。森腰浜遺跡、宇治役場裏遺跡が発掘調査されている。いずれも棒状尖底の製塙土器が出土しているが、宇治役場裏遺跡では奈良時代から10世紀頃までの棒状尖底土器も出土している。

古代ではぐっと遺跡が少くなり4遺跡が確認されるのみである。うち一遺跡は前述の宇治役場裏遺跡で、他には高波ふるや遺跡、粟津カンジヤバタケ遺跡、高波宿崎遺跡で遺物が出土している。

中世は7遺跡が確認されている。蛸島水上神社窯跡は図中で唯一の窯跡である。また、大宮司畠中世墓は同じく図中唯一の中世墓である。集落と考えられる遺跡では、粟津カンジヤバタケ遺跡、粟津小学校遺跡があり、粟津小学校遺跡では、建物跡、井戸等が確認されている。

遺跡数が少なく感じられるが、これはまだまだ未知の遺跡が眠っているのだと思われる。また、内容の明らかとなった遺跡も少ない。今後、詳細な分布調査や発掘調査が実施されれば多くの事実が明らかになると思われる。

第1表 周辺の遺跡地名表

遺跡番号	名 称	所在地	種別	現状	立地	時代	出土品	備考
05151	鮎島車坂道路	珠洲市鮎島町	散布地	山林	台地端	縄文	磨製石斧	
05152	鮎島小学校A道路	珠洲市鮎島町	散布地	校地	平地	縄文	土器(中期)、磨製石斧、石錐	
05153	鮎島小学校B道路	珠洲市鮎島町	散布地	烟	半地	古墳	土師器	
05154	旧鮎島中学校道路	珠洲市鮎島町	散布地	宅地	砂丘	縄文	土器(後期)、磨製石斧	現在鮎島保育所付近
05155	鮎島水上・神社窓跡	珠洲市鮎島町	京路	烟	台地	中世	珠洲燒	
05156	鮎島跡・崎道路	珠洲市鮎島町	散布地	海岸	砂丘	古墳	製塙土器	県道三崎親水周辺
05157	雲津道路	珠洲市三崎町雲津竹沢	散布地	宅地	台地	縄文	尖頭器(草創期)	粘土探査中発見
05158	小泊新八幡神社横道路	珠洲市三崎町小泊	散布地	宅地・烟	平地	古墳	土師器、製塙土器	
05159	高波ふるや道路	珠洲市三崎町高波	散布地	烟・田	台地	縄文～奈良	縄文土器(前～後期)、石器、貝殻魚獣骨	「高波遺文書跡」として市指定史跡 1952年、九字会連合調査団発掘調査
05160	伏見道路	珠洲市三崎町伏見	散布地	烟	平地	弥生	土器	
05161	高波小崎道路	珠洲市三崎町高波	散布地	海岸	平地	古墳	製塙土器	
05162	高波宿駅道路	珠洲市三崎町高波	散布地	烟・田	丘陵	平安～中世	土師器、須恵器、珠洲燒	
05163	高波道路	珠洲市三崎町高波	散布地	烟・田	丘陵斜面	中世	珠洲燒	
05164	伏見野田山下道路	珠洲市三崎町伏見	散布地	山林・田	丘陵斜面・平地	奈良・中世	弥生・土器・珠洲燒	1990年、県埋文センター発掘調査
05165	本村シダシヤマ道路	珠洲市三崎町本村	散布地	烟	丘陵斜面	中世	土師器(灯明里)珠洲燒	
05166	本村一本松道路	珠洲市三崎町本村	散布地	烟	台地	縄文	石錐・石甃	開墾中発見
05167	本村コウノス池横穴	珠洲市三崎町本村	横穴墓	山林	丘陵斜面	不詳		
05168	宇治投場裏通路	珠洲市三崎町宇治	散布地	海岸	砂丘	古墳	土器	
05169	森腰浜道路	珠洲市三崎町森腰	散布地	海岸	砂丘	古墳	製塙土器(底灰)	1959年、岡山大学発掘調査
05170	森腰天恩寺道路	珠洲市三崎町森腰	散布地	田	平地	古墳	土器	
05171	栗津カンジャバタケ道路	珠洲市三崎町栗津	散布地	烟	平地	縄文	縄文土器、弥生土器、土器群、須恵器、製塙土器、砾石、珠洲燒	1975年、市史跡調査 1990年、県埋文センター発掘調査
05172	栗津小学校道路	珠洲市三崎町栗津	散布地	校地	台地端	縄文	磨製石斧、石皿、石棒	
05173	大宮司道中世墓	珠洲市三崎町栗津	墳墓	墓地・山林	山麓	室町～江戸		
05174	栗津大宮寺山道路	珠洲市三崎町栗津	散布地	烟	平地	古墳	土器	

第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

発掘調査は分布調査の結果から遺跡範囲全面を調査するのではなく、適宜トレンチを設定し、その様相を確認しながら進めていくという方針で実施した。調査開始時に遺跡範囲にA～Fのトレンチを配置した。表土除去の段階でFトレンチ中央付近からはベース面が落ち込み始め、その東のEトレンチではベース面自体が確認できなかっただため、鞍部で遺跡の範囲からはずれると判断し、両トレンチとも記録資料の作成の後、埋め戻した。

A～Dトレンチについても明瞭な遺構は確認できず、Cトレンチで杭と矢板を確認した以外遺構は確認できなかった。

第2節 遺構と遺物

Aトレンチ

Aトレンチは、耕作土、床土の直下にベース面が確認された。ベース面は礫を含む青灰色土ある。丘陵裾が削平されたと考えられる。遺物は少量出土しているが、ベース面に張り付いたような状態で出土している。1は、珠洲焼甕胴部片、2は、弥生時代終末期高坏脚部である。2は摩滅が著しい。

Bトレンチ

Bトレンチは、地表から80cm程でベース面となる。表土、床土の下に灰色～暗灰色を呈する土壤が堆積し、その下部に黒灰色土を挟みベース面に達する。ベース面上部は、上層の黒灰色土が根株状に落ち込んでいる。後述するCトレンチと同様な土層堆積状況を示し、水田と思われるが、畦畔等は確認できなかった。

遺物は、水田の耕土と思われる黒灰色土とその上層の暗灰色土から出土しているが、その量はわずかである。3は、くの字に外反する古墳時代前期の土師器甕である。口径は19cm程でこれも摩滅が著しい。4は、中世土師器小皿で底部に糸切り痕が残る。口径6.3cm、底径5.3cm、器高1.2cmで、胎土に砂粒が多く含む。5は、珠洲焼甕口縁部で強くなっている。口径は20cm弱である。

Cトレンチ

CトレンチもBトレンチと同様な土層堆積状況を示すが、下部の黒灰色土はベース面の土壤が混じる部分が下半部にあり上下に2分される。トレンチの北西隅で11の矢板が、南側中央で12、13の杭が確認されたが、畦畔等を確認するにはいたらなかった。

遺物の出土状況もBトレンチと同様である。6は、弥生時代後期後半の甕口縁部で径は15.6cm、やや摩滅している。7は、Bトレンチ出土の4と同様な中世土師器小皿で、口径6.3cm、底径5cm、器高1.5cmである。やはり胎土に砂粒が多く含む。8は、珠洲焼甕口縁部でやや口縁は外に伸びる。9は、越中瀬戸焼小皿である。

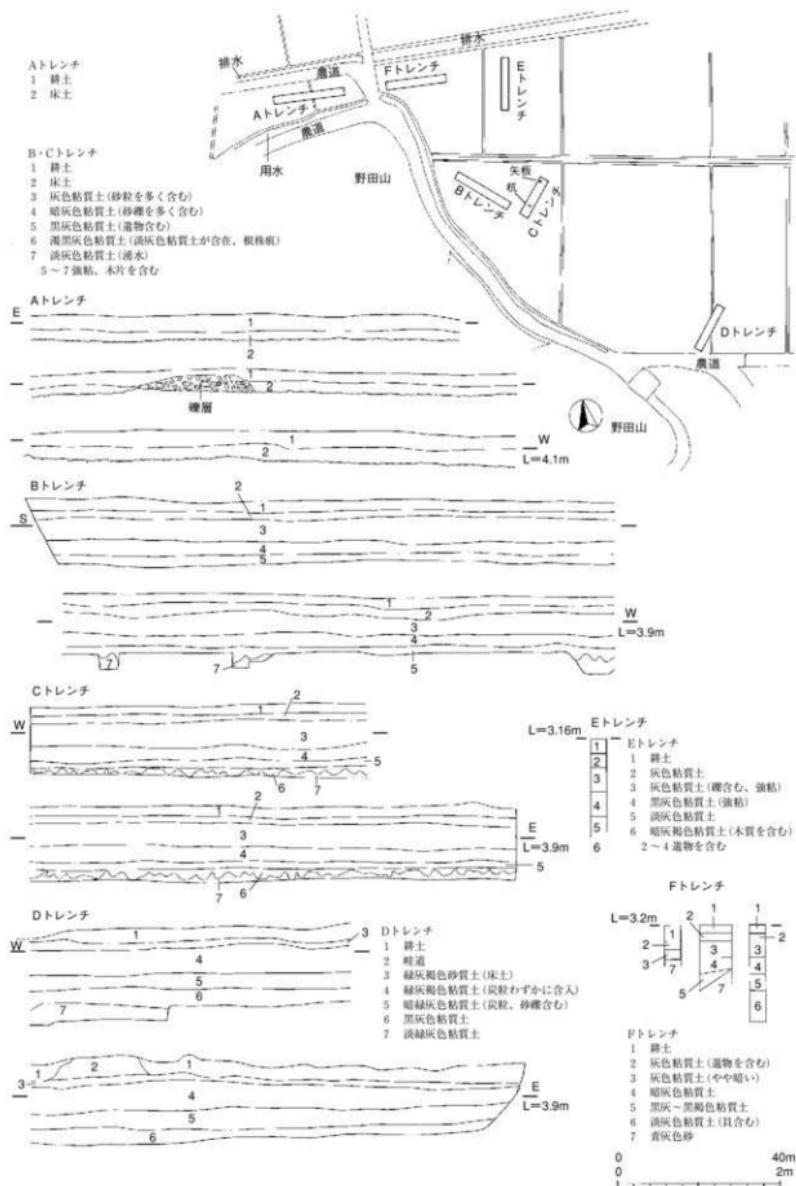
11は、矢板である。現存長66cm、厚さ5cm弱の板目材を用いている。12も同様な材で、現存長44.4cm、13は、現存長29.4cmでやや薄いが、同じ板材を分割して製作している可能性がある。

Dトレンチ

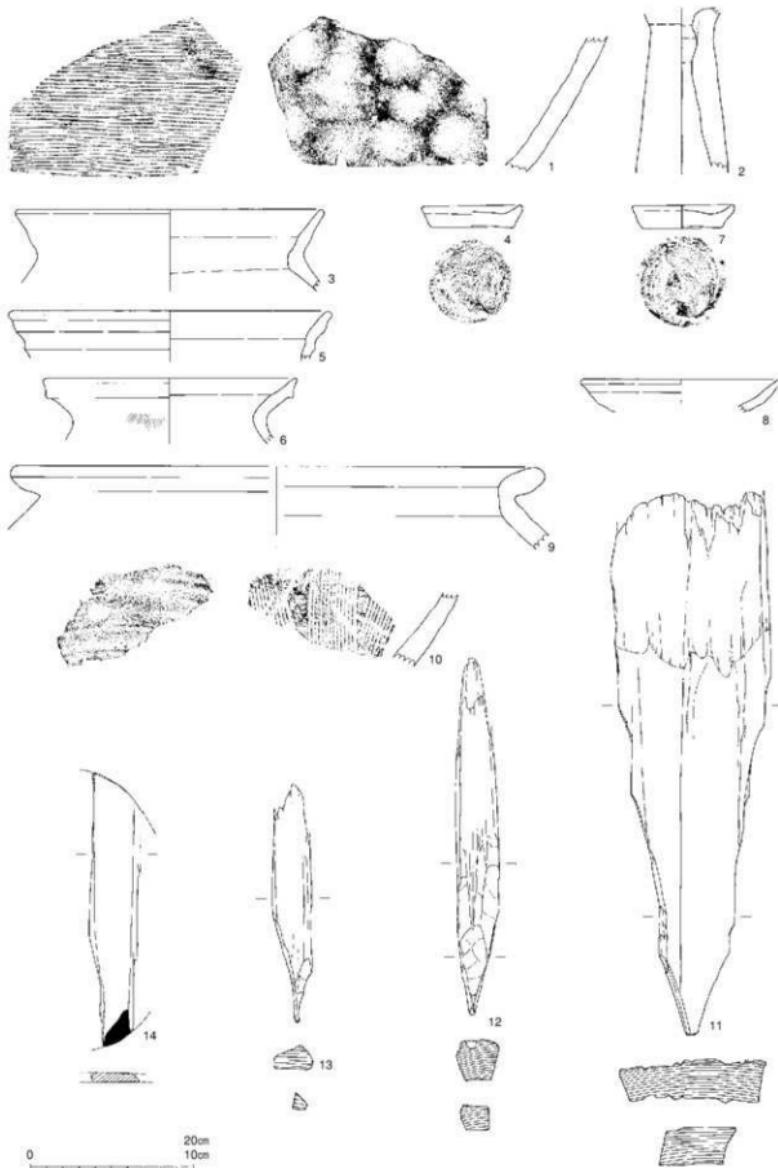
DトレンチもB、Cトレンチと同様な土層堆積状況であるが、表土直下の土壤がベース面に近い色調を示している。遺物の出土量は極わずかで、14の曲物底板を図示したにとどまる。



第3図 調査地点の位置 (S= 1 / 5,000)



第4図 トレンチの位置 ($S=1/1,200$) と土層断面図 ($S=1/60$)



第5図 遺物実測図 (1~10, S=1/3 11~14, S=1/6)

E、Fトレチ

第1節で述べたような状況から、土層堆積状況の記録の後、埋め戻している。Fトレチ中央付近からベース面が落ち込んで行き、Eトレチでは、地表から120cm掘り下げるでもベース面を確認できない。FトレチではB、Cトレチで確認できた黒灰色土が堆積しているものの、その下部には灰色土の貝を含む層が確認され、Eトレチでは灰色土の下で腐植物を含む土壤を確認している。どちらも水田の可能性があるものの、調査時には判断できなかった。遺物は出土量が極わずかで、図示できるものはない。10は、珠洲焼鉢で、表採品である。

第4章 まとめ

伏見野田山下遺跡の発掘調査は、トレチ調査を実施して、遺跡の様相を探る調査であった。確認できたのは、Cトレチの矢板と杭のみである。土層断面から推定すれば水田跡と考えるのが妥当であろう。しかし、当時は、県内で水田跡の検出例が極めて少なく、まったく水田跡を想定せずに調査を実施したため、それを見逃してしまった可能性が高い。ベース面に残る根株状の痕跡からすれば、上部の黒灰色土が水田耕作土であろう。その上部に堆積する灰色系の土壤は、その後の開発等による土壤と思われ、それも水田耕作土と思われる。色調の差からすれば、水田跡との想定が先にあり、また、もう少し広い範囲で調査を実施していたなら、畦畔等を確認できていたかもしれない。

水田跡の時期は、黒灰色土から出土している遺物からすれば、おおむね中世と考えられるが、その詳細な時期は良くわからない。珠洲焼や中世土師器からするならば、おおむね14世紀を中心とする頃と考えられる。

近くには中世の遺跡は確認されておらず、他に弥生から古墳時代の土器がわずかに出土しているが、それらの遺跡も周辺ではない。他地域の遺跡分布からすればもう少し遺跡があってもよきそうである。今後、それらが確認されれば、もう少しこの遺跡を評価することができるのではないかと思われる。

当時の周辺の状況がどうであったかはなかなか想定が難しいが、調査の結果から見れば、周辺には低地が広がっていたと思われる。他には、海退期にあたる弥生～古墳時代の時期の遺物しか確認できないことからすれば、低地部全体に水田が広がっていたとは想定できず、丘陵裾や微高地を中心に水田が開かれていたと思われる。遺物での痕跡は確認できないが、そこでは、水田以外にも安室知（安室2005）や、菅豊（菅1994）が描き出した水辺の生業が行われていたと想定したい。

参考文献

- 菅 豊 1994 「「水辺」の開拓誌」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集 国立歴史民俗博物館
珠洲市史編纂専門委員会編 1976 『珠洲市史』第1巻 資料編 自然・考古・古代 珠洲市
松山和彦、中西洋司 2003 『珠洲市宇治役場裏遺跡』(財)石川県埋蔵文化財センター
安室 知 2005 『水田漁撈の研究』慶友社



調査区全景（東から）



Aトレンチ全景（西から）

図版 2



A トレンチ作業風景



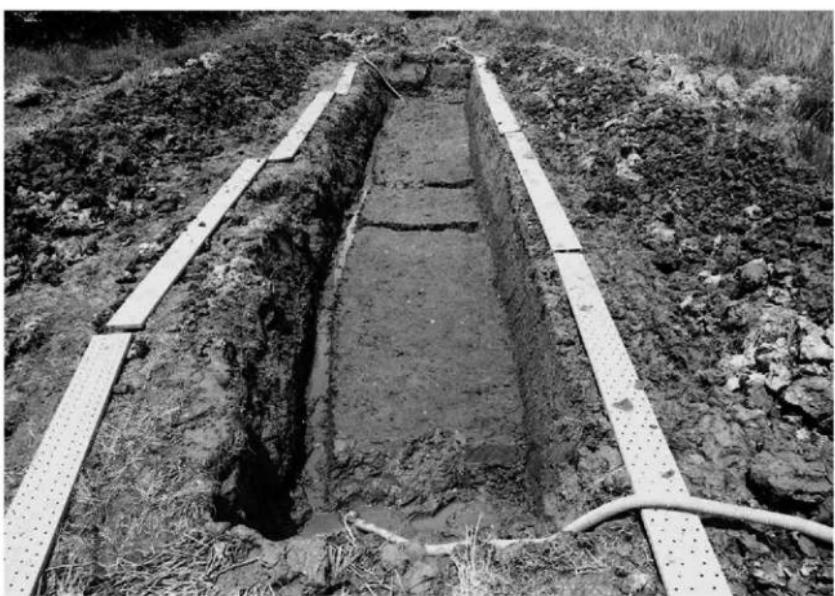
A トレンチ土層断面 1



A トレンチ土層断面 2



A トレンチ土層断面 3



B トレンチ区全景（東から）



Bトレンチ土層断面 1



Bトレンチ土層断面 2



Bトレンチ土層断面 3



Bトレンチ土層断面 4



Bトレンチ土層断面 5



Bトレンチ土層断面 6



Bトレンチ作業風景



Cトレンチ杭検出状況



Cトレンチ全景（南東から）



Cトレンチ矢板検出状況



Cトレンチ土層断面 1



Cトレンチ土層断面 2



Cトレンチ土層断面 3



Cトレンチ土層断面 4



Cトレンチ土層断面 5



Dトレンチ全景（南東から）



Dトレンチ土層断面 1

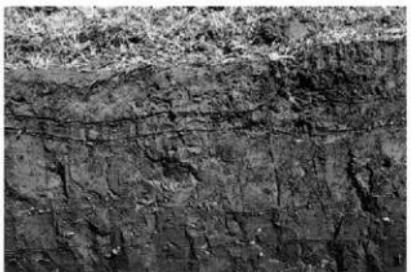


Dトレンチ土層断面 2

図版 6



D トレンチ土層断面 3



D トレンチ土層断面 4



D トレンチ土層断面 5



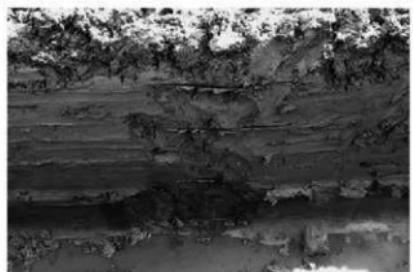
D トレンチ土層断面 6



D トレンチ土層断面 7



D トレンチ土層断面 8



E トレンチ土層断面



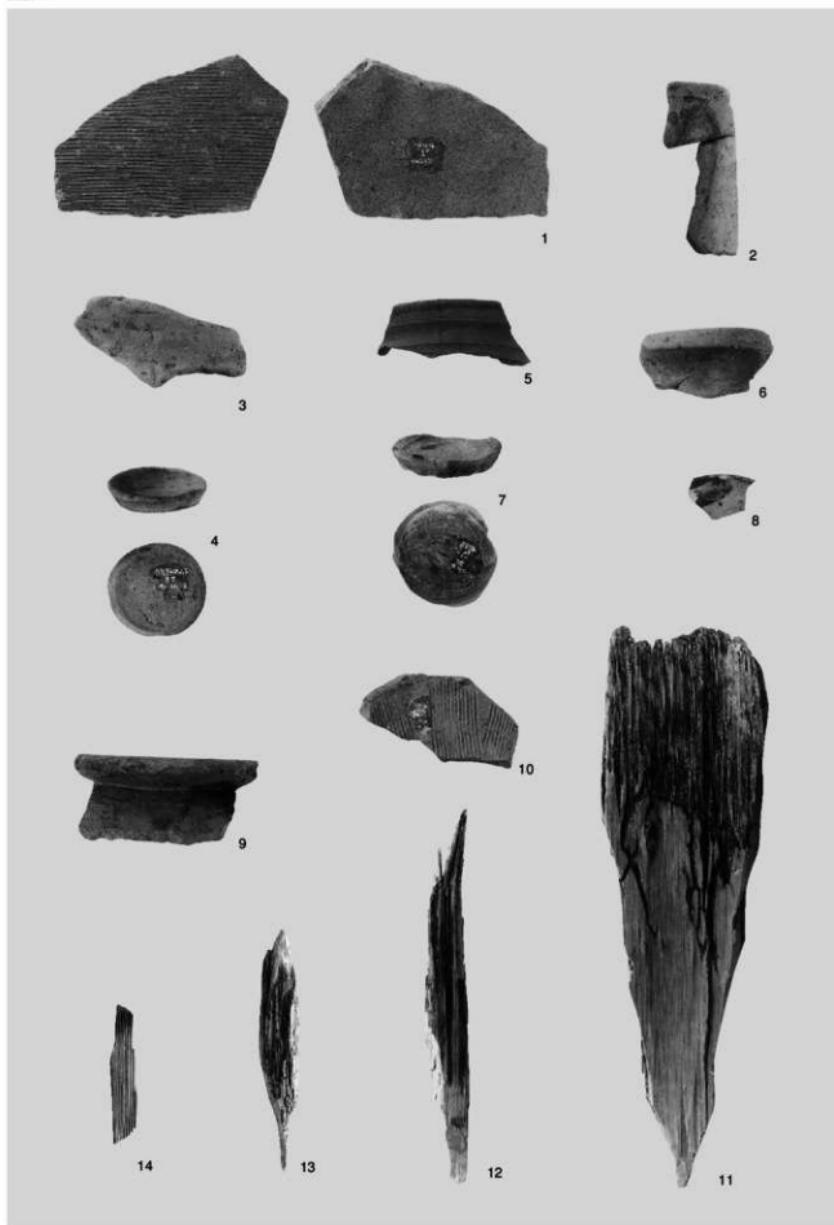
F トレンチ土層断面



E トレンチ表土除去状況



F トレンチ全景（西から）



出土遗物

報告書抄録

ふりがな	すずしふしみのだやましたいせき							
書名	珠洲市伏見野田山下遺跡							
副書名	紀の川局部改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	本田秀生							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 (TEL 076-229-4477)							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
すずしふしみのだやましたい 伏見野田山下 遺跡	いしかわけん すずし 石川県 珠洲市 みさきまちふくし 三崎町伏見	172057	05164	37度 27分 42秒	137度 20分 41秒	19900607 19900622 19901012 19901012	500 m ²	紀の川 局部改 良工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見野田山下 遺跡	散布地	中世	矢板、杭	珠洲焼、中世土師器				
要約	14世紀を中心とする水田跡と思われるが、矢板、杭などを検出したにとどまる。							

珠洲市 伏見野田山下遺跡

発行日 平成18(2006)年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市輪月1丁目1番地

電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail address mail@shikawa-maibun.or.jp

印 刷 ハヤシ印刷紙工株式会社